



## JCAが発足して1年半

ばばとしひこ  
馬場 利彦

日本の協同組合が、日本協同組合連絡協議会（JJC）の協同組合間連携や国際協同組合運動を引き継ぎ、JAグループの調査研究機能を担ってきたJC総研を改組して組織した日本協同組合連携機構（JCA）を誕生させて1年半が経過しました。令和の時代を迎え、まずは、私が勝又博三・前代表理事専務の後任を務めることとなりましたことを、本誌を借りてご挨拶させていただきます。何卒よろしくお願い申し上げます。

### JCAの使命は「持続可能な地域づくり」

周知のように、わが国の協同組合は、農協、漁協、森林組合、生協、信金・信組や事業協同組合、労協など分野は多岐にわたっていますが、欧米と違って、各分野別に法律があって監督官庁も異なるという特徴があります。

JCAは、こうした異業種の協同組合が制度の垣根を越えて連携する組織（一般社団法人）として2018年4月に発足しました。

JCAの使命は、「持続可能な地域のよりよい暮らし・仕事づくり」に向けた、協同組合間の連携の推進・支援、広報、教育・調査研究にあります。とりわけ地域のさまざまな課題への対応としての協同組合間の連携は、県域連携組織のご尽力とJCAでの先進事例の共有化・出向く推進の取り組み等もあって、県域の協同組合間の包括協定の締結や連携による地域活動の多様化、商品・宅配・移動購買車・店舗の共同運営等の事業連携への広がりなど、着実に前進しています。

また、日本共済協会にはJCA設立当初より当

機構の会員となっただいていますが、この間、多くの生協県連の新規加入をはじめ、中央労福協、信用金庫・信用組合の全国協会、事業協同組合の全国中小企業団体中央会も加入していただいて、ほぼすべての協同組合の全国組織がJCAの仲間になりました。JCAとしては幅広い連携の力を活かして、SDGsの取り組み、政策提言・広報の推進などに努めて参ります。

協同組合は業種・分野は異なっても、地域の組合員の仕事・暮らしにかかわる課題を協同（事業・活動）で解決する同じ「協同組合」です。そして、一つの協同組合ではなしえないことを異なる協同組合が連携することで、協同組合の価値と地域で果たす可能性、役割を広げるとともに、国民理解に向けて「協同組合」を広く発信できると確信しています。

### 「みんなでみんなを守るということ」

JCA会員の全労済がこくみん共済 coop という愛称となってTVで流されているCM中のフレーズ「みんなでみんなを守るということ」。「いま必要なのは共済っていう考え方」「たすけ、あいつって愛なんだ」と芦田愛菜さんが語ったあとに流れています。

私自身はJA全中に36年在籍していましたし、学生時代は日本協同組合学会の初代会長であった伊東勇夫・佐賀大学教授の下で協同組合論も学びました。全中において協同組合を説明する機会は中央協同組合学園生への講義を含め多少ありましたが、協同組合を簡潔にうまく説明できずにいたというのが本音です。集落営

農の組織化やその法人化には関与しましたが、協同組合を作った世代ではなく、制度として既に存在しているものなので実感をもって語る事ができずにいました。

そんな中で、「協同組合」を「みんなでみんなを守るということ」と、一言で言い表したこの言葉に感銘すら受けました。

協同組合原則の第5原則は、教育・研修とともに「組合は、一般の人（とりわけ若い世代やオピニオンリーダー）に対して協同活動の本質と意義を広めます」となっています。

しかし、若い世代層にはJ A・J F・JForestやCOOPという名称は浸透していても、それが相互扶助を本質とし、持続可能な地域社会づくりに努めている同じ「協同組合」であるということは知られていないのが実情です。

JCAの役割として「協同組合」の広報・国民理解の醸成が重要な柱と認識していますが、各会員団体の「協同組合」を意識した取り組みや広報も効果的だと痛感したところです。

なお、JCAのHP（協同組合とは＞協同組合の共済とは）から日本共済協会のHP（共済について＞共済って、いったいどんなの？）に9月からリンクをはらせていただきました。「共済とは」はもちろん協同組合をわかりやすく解説していて、私にとっても、「済」という文字の意味や7700万人以上もの加入があることなど新発見がいくつもありません。

### 協同組合の父・賀川豊彦がミュージカルに

JCA代表理事専務となった直後にお二人の方が当機構に訪されました。お一人は元愛媛県共済連・J A共済連全国本部におられた和田武広さんで、賀川豊彦記念松沢資料館の出版助成

で出版された『共済事業の源流をたずねて一賀川豊彦と協同組合保険』（緑蔭書房刊）を謹呈いただきました。現在JCAの客員研究員でもある伊藤澄一氏（元全中常務・日本共済協会元専務）の解説もあって、一気に拝読いたしました。J A共済の父としての賀川豊彦の姿と想いを再認識させられました。

その後、来訪されたもう一人の方は、わらび座の菊池冴さんです。わらび座は、秋田の農村を本拠地に68年前に創設された劇団で、近年では、2011年からミュージカル「おもひでぼろぼろ」（全国約350回）や、2017年から今年にかけてミュージカル「KINJIRO! ～本当は面白い二宮金次郎～」（全国約300回）といった協同組合に関する作品を全国各地で上演し、高い評価を得てきました。そのわらび座の菊池さんから、今度は2021年2月からミュージカル「ハルと豊彦 ～ノーベル賞候補に5度なった男・賀川豊彦とその妻の物語」を全国公演するとの企画を聞きました。和田和弘さんの「源流」を読み上げた直後でもあったので、即座にJCAとしての後援・協力をお約束したところです。この副題にありました「日本の協同組合の父・豊彦」「今こそ多くの日本人に伝えたい協同組合の原点がここにある」というフレーズは、まさにJCAの役割でもあると思った次第です。是非とも協同組合関係者のご支援をお願いいたします。

また賀川豊彦著「復刻版 乳と蜜の流るゝ郷」が10年前に家の光協会から出されて、現在3冊まで発行されています。85年前の作品ですが、今だからこそ読み返してみようと思います。

（日本協同組合連携機構 代表理事専務）